

南種子町立南種子中学校いじめ防止基本方針

1 いじめの定義

「いじめ」とは、「当該生徒生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的・物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。

そして、個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた生徒生徒の立場に立って行う。

(文部科学省「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」より)

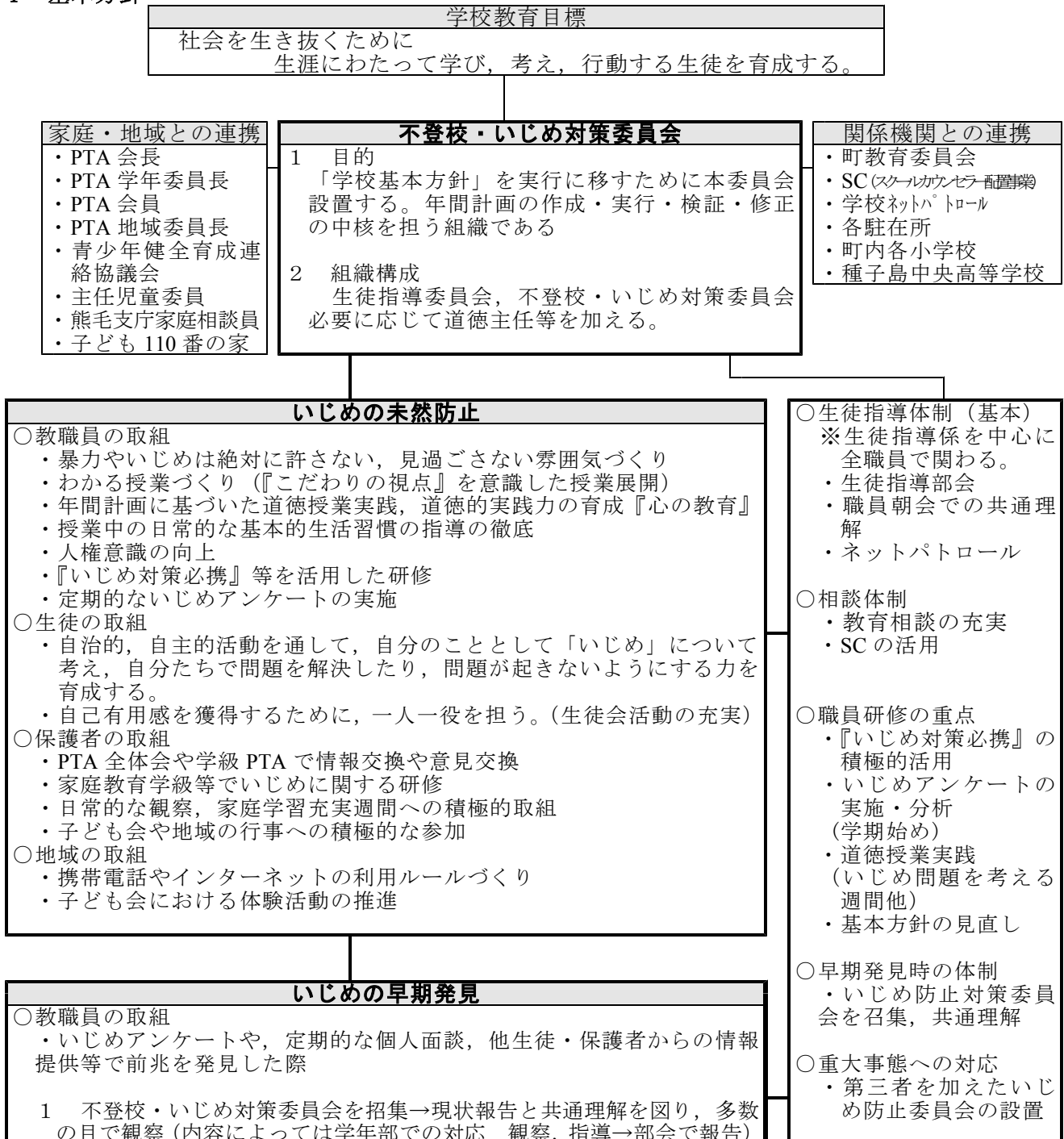
2 いじめ防止基本方針策定の目的

本方針は、いじめ防止対策推進法(平成25年法律第17号)第十三条により、南種子中学校の全ての生徒が、いじめのない安心して充実した学校生活をおくることができることを目的に「いじめ防止基本方針」を策定した。

3 いじめ防止に向けての基本姿勢

いじめの兆候や発生を見逃さず、学校が迅速かつ組織的に対応するために、いじめに対する認識を全教職員で共有する。また、いじめはどの子どもに起こりうるという事実を踏まえ、全ての生徒を対象に、いじめに向かわせないための未然防止に取り組む姿勢を全教職員で示す。

4 基本方針



- 2 いじめが確認できた際は、早急に担任等による教育相談
→生徒に安心感を持たせるとともに、事実確認をする。

〈事実確認項目〉

- ①誰が誰をいじめているのか ②いつ、どこで起こったのか
③どんな内容のいじめか、どんな被害があったのか
④いじめのきっかけは何か ⑤いつから始まったのか

- 3 場合に応じて、SCを活用する。

- 生徒の取組
 - ・悩みがあれば、我慢せずに担任や学年職員や養護教諭等に相談
 - ・生徒会による、いじめ撲滅アピール、アンケート実施等
- 保護者の取組
 - ・日常的な観察（細かい変化を見逃さない）
→気になったことはすぐ担任・学校に相談
- 地域の取組
 - ・登下校時の生徒の様子について、学校に情報提供

いじめに対する措置

- 教職員の取組
 - ・生徒指導委員会、不登校・いじめ対策委員会を中心にして対応を判断する。

いじめられた生徒に対して	いじめた生徒に対して
<ul style="list-style-type: none"> ・事実確認とともに、まず辛い気持ちに共感し、心の安定を図る。 ・「最後まで守り抜くこと」「秘密を守ること」を伝える。 ・必ず解決できる希望がもてることを伝える。 ・自尊感情を高めるような言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめた気持ちや状況について十分聞き、背景にも目を向けて指導する。 ・心理的な孤立感、疎外感を与えないようにするなど一定の教育的配慮の基、毅然とした態度で指導し、いじめが人として絶対に許されない行為であることやいじめられた側に気持ちを認識させる。

いじめられた生徒の保護者に対して	いじめた生徒の保護者に対して
<ul style="list-style-type: none"> ・発見したその日のうちに家庭訪問等で保護者面談をし、事実関係を直接伝える。 ・学校の指導方針を伝達し、今後の対応について協議する。 ・保護者の辛い気持ちや不安な気持ちを共感的に受け止める。 ・継続して家庭と連携をしながら解決に向かって取り組むことを確認する。 ・家庭での生徒の変化に注意してもらい、些細なことでも相談するように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な事実関係を説明し、いじめられた生徒や保護者の辛く悲しい気持ちを伝え、よりよい解決を図ろうとする思いを伝える。 ・「いじめは絶対許されない行為である」という毅然とした姿勢を示し、事の重大さを認識させ、家庭での指導を依頼する。 ・生徒の変容を図るために、今後の関わり方などを一緒に考え、具体的な助言をする。



〈**重大事態の発生**〉

- ① 生命、心身または財産に重大な被害が生じた疑い（生徒が自殺を企画した等）
② 年間30日以上以上の期間を欠席することを余儀なくされている疑い
③ 生徒や保護者から重大事態に至ったという申し立てがあった場合

- 学校を調査主体とした場合
 - 1 専門的知識及び経験をもつ第三者を加えたいじめ防止委員会を立ち上げ、情報（事実）収集
 - ・記録・共有及び事実確認を行った後、早急に報告【報告：学校長→町教育委員会】
 - 2 いじめを受けた生徒と保護者に情報を適切に提供
 - ・適時、適切な方法で、経過報告する。
 - ・個人情報に十分配慮する。（※個人情報情報を楯に説明を怠ってはいけない）
 - ・アンケート実施する際は、その旨を調査対象の生徒・保護者に説明をする。
- 教育委員会が調査主体となる場合
 - ・設置者の指示のもと、資料の提出や調査に協力する。

- ・学校長の判断により、場合によっては出席停止や転学等の措置を検討する。
- ・場合によっては、PTAや校区にも協力を依頼する。
- ・いじめや暴力行為等に関して犯罪行為の可能性がある場合は、直ちに警察に通報し、その協力を得る。

- 生徒の取組
 - ・当事者だけの問題でないことを認識し、いじめの傍観者から仲裁者への転換を図る。
 - ・いじめや暴力は絶対に許さないという思いを繰り返し確認する。
 - ・よりよい学級づくりに向けて、一人一人が真剣に考える。
 - ・何でも話し合えるような雰囲気づくりをする。
 - ・友人の変化をすぐ担任に相談（情報提供）することは正義の行動であると認識する。
 - ・マスコミなどでいじめに関する報道がされた際は、学級でも話し合う機会をもつ。
- 保護者の取組（※教職員の取組 参照）
 - ・学校の取組に協力する。（いじめた側・いじめられた側）
 - ・学校へ情報提供をする。